

第1部映画編第13話

グレース・ケリーとレーニエ3世 モナコ公国

コートダジュールのニース、カンヌを巡りモナコ公国へ立ち寄った。モナコは小さな国であるが独立した国である。国の面積は2平方キロメートルで、東京ディズニー・リゾートの敷地とほぼ同じ、皇居の約2倍の広さしかない小国で、バチカン市国に次ぐ小さな独立国である。

モナコは1956年、今から66年も前だが世界を沸き立たせたシンデレラ物語の舞台である。映画の都ハリウッドで絶大な人気を誇っていた女優グレース・ケリーをモナコ公国のレーニエ三世が見初め、お妃に迎えたのである。このおめでたは世界中に世紀の結婚と大きく報じられ、あまり知られていなかったモナコ公国を一挙に有名にしたのである。

モナコはカジノと高級リゾート地として広く知られ、世界のセレブ達が集まってくる観光立国である。その歴史は1297年まで遡る。19世紀に岩山だった国土にカジノを導入したことをきっかけとして、人々が心から憩えるホテル建設や施設の充実に腐心し今日の隆盛を築いたのである。毎年5月に開催される世界的なイベントであるモンテカルロF1レースはモナコの市内道路をそのままサーキットとして使い、街中に轟音を轟かせ走りまわる様は圧巻である。

モナコは海を抱えて切りたった岩山に囲まれた街で、港には豪華なクルーザーや大型客船が停泊し、市内はホテルが建ちならび素敵な装いをこらした人々が優雅に散策している。治安は世界のトップクラスだ。モナコの人口密度は世界で一番高く、狭い空間に3万8千人が居住している。16%がモナコ公国の国民で、84%は外国の富裕層が占めている。理由は個人の居住者は所得税が免除されるいわゆるタックスヘイブン地区で、高額所得者にとっては大層魅力的な国なのである。



モナコの港には世界各国の船が集う



見晴台から見る街並み



モナコは世界一の人口密度



宮殿へ続く落ち着いた街並み



モナコ公国の宮殿

見晴らしのいい高台にモナコ大公の宮殿があるが、ここは1215年ジェノバ人の築城した要塞跡であった。ちょうど12時になるところで多くの人々が小走りに宮殿目指し集まっていくのでついていくと、衛兵交代のセレモニーが始まるところだった。王宮の塔に旗が翻っている時には大公がお

られる印という、当日は白い旗が海風にはためいていた。

グレース・パトリア・ケリー（1929年4月18日～1982年9月14日）

女優・モナコ公国公妃。アメリカ合衆国フィラデルフィアに生まれる。父親はレンガ会社を立ち上げた億万長者、母親は元モデルで大学の講師でもあった。また叔父は劇作家でピュリッツァー賞を受賞している。

グレース・ケリーは美貌と上品な容姿に恵まれ22歳の時にハリウッドで映画デビューした。

“真昼の決闘”で人気絶大であったゲーリ・クーパーの相手役を務め、さらに“ダイヤルMを回せ”、“裏窓”、などの話題作で主演を務め、ゴールデングローブ賞などいくつもの演技に対する賞を獲得している。そして1955年の“喝采”では大物のビング・クロスビーの相手役を務め、その演技が高い評価を得てアカデミー主演女優賞の榮譽を受けている。

モナコにほど近いカンヌ国際映画祭で紹介を受けたモナコ大公レーニエ3世に見初められ、これを機に絶頂期にあった女優業からあっさり身を引き、レーニエ大公と結婚しモナコ公妃となる。

この世紀の結婚は今シンデレラと世界中で大きな話題を呼び、結婚式の模様は多くの国で中継され放映された。彼女は日本びいきでもあった。三人の子供を授かり幸せな日々を過ごしていたが1982年、自身が車を運転し、南仏からモナコへ帰る途中切り立つ崖下に転落し死亡した。享年52歳であった。

ニースからカンヌ、モナコにかけての自動車道路は急峻な崖際であり、坂やきついカーブも多く、フランス映画“悲しみよこんにちは”でも、デボラカーの運転する車が崖下の海にダイブする場面がありスリルに富んだ道である。



モナコ大聖堂



グレース・ケリー眠る



レーニエ三世眠る

レーニエ三世＝レーニエ・ルイ・アンリ・マクサンス・ベルトラン・クリマルディ・モナコ公（1923年5月31日～2005年4月6日）在位56年を誇り81歳で没した。

欧州の華麗な血を引く家柄でモナコ公宮殿にて出生イギリスのパブリックスクールを卒業し、モンペリエ大学並びにパリ政治学院で学び第2次大戦ではフランス軍で大佐を務めた。

1949年に即位する。1952年ハリウッド女優のグレース・ケリーと結婚する。三人の子宝に恵まれ長子のアルベール公が跡を継ぎ即位している。レーニエ三世は在位中モナコの経済基盤整備

などに功績を残している。またカーマニアとして知られている。2005年肺感染症などの病をえて逝去した。夫妻は多くの人々から敬愛され墓前には美しい花が絶えることはない。(2014年)